

統計に見る福島の教育

「幼児教育関係施設の整備計画等に関する調査」

昭和51年度調査結果から

表1 幼稚園数・学級数

区分	学 級 数 別										計	学級数	
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9			10
公立	-	(36,6)	(32,5)	(16,2)	(9,1)	(4,1)	(1,0)	-	(0,0)	-	-	(100,0)	428
私立	(1,5)	(0,7)	(23,0)	(19,4)	(13,7)	(6,5)	(11,5)	(6,5)	(7,2)	(5,0)	(5,0)	(100,0)	644
計	(0,6)	(21,7)	(28,6)	(17,6)	(11,0)	(5,0)	(5,3)	(2,7)	(3,3)	(2,1)	(2,1)	(100,0)	1,072

(注) 1. 0学級の2幼稚園は、休園中である。
2. () 内は各学級別の割合である。

表2 幼稚園・保育所数別 小学校区数

区 分	小学校 区数の 合計	幼稚園数別小学校区数					保育所数別小学校区数					幼稚園も 保育所も 設置され ていない小 学校区数	幼稚園も 保育所も 設置され ている小 学校区数		
		0	1	2	3	4	計	0	1	2	3			4	計
		0	1	2	3	4	計	0	1	2	3			4	計
小学 学年 校児 の童 年数 一別															
0～40人	482	380	101	1	-	482	418	62	2	-	-	482	318	2	
41～80人	88	22	65	1	-	88	50	36	2	-	-	88	11	27	
81～120人	45	7	23	13	2	45	13	28	3	1	-	45	3	28	
121～160人	34	6	14	12	1	34	7	14	10	3	-	34	4	25	
160人以上	43	3	20	15	4	43	4	20	15	3	1	43	-	36	
計	692	418	223	42	7	692	492	160	32	7	1	692	336	118	

図1 幼稚園・保育所設置
状況別小学校区
の割合

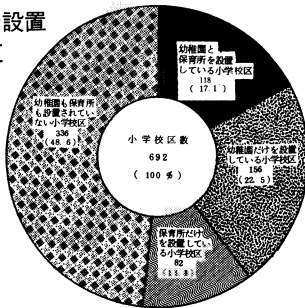


表3 幼稚園在園状況・保育所在籍状況

区 分	人 口 (b)	幼稚園在園者数			保 育 所 在 籍 者 数 (d)	幼 稚 園 在 園 率 (c/b) × 100	保 育 所 在 籍 率 (d/b) × 100
		公 立	私 立	計(c)			
3歳児	31,815人	11人	1,385人	1,396人	4,461人	4.4%	14.0%
4歳児	30,653	3,112	9,135	12,247	6,426	40.2	21.0
5歳児	30,439	10,215	11,371	21,586	5,759	70.9	18.9
計	92,907	13,338	21,891	35,229	16,646	37.9	17.9

(1) 公立と私立幼稚園の園数と学級数の比較
公立・私立別に園数及び学級数を見ると、表1のとおりである。幼稚園の数では、公立が五十八園多く、学級数では、私立が二百十六学級多くなっている。また、公立には、小規模幼稚園が多く、一方私立は、公立に比し規模が大きい。

一、幼稚園・保育所の現状

この調査は、市町村における幼稚園保育所の整備の現状と、その将来計画について調査し、国及び地方公共団体における、幼児教育振興計画の策定に関する、基礎資料を得ることを目的とした。なお、この調査の対象は、すべての市町村教育委員会である。

(1) 公立と私立幼稚園の園数と学級数の比較

(2) 小学校区における幼稚園・保育所の設置状況等

この調査は、市町村における幼稚園保育所の第一学年児童数別にみると表2のとおりである。この表に示した内容から、幼稚園と保育所の設置状況別に小学校区数の割合を見ると図1のとおりである。この図に示すとおり、小学校区六百九十二のうち、約半数近くの小学校区には、現在幼稚園も、保育所もない現状である。

(3) 幼稚園・保育所の在園・在籍状況

幼稚園・保育所の在園・在籍状況は表3のとおりである。この表に示すとおり、幼稚園在園率が、五歳児で、七

小学校区における幼稚園・保育所の設置状況等
幼稚園・保育所数別小学校区数を小学校の第一学年児童数別にみると表2のとおりである。この表に示した内容から、幼稚園と保育所の設置状況別に小学校区数の割合を見ると図1のとおりである。この図に示すとおり、小学校区六百九十二のうち、約半数近くの小学校区には、現在幼稚園も、保育所もない現状である。

○・九%、四歳児では、四〇・二%となっており、保育所の在籍率は五歳児では、一八・九%、四歳児では二一・%となっている。
幼児人口に占めるこれら施設に在園又は、在籍しているものの合計でみると五歳児では、そのほとんどが幼稚園か保育所のいずれかに通っており、四歳児では六人に一人が通っている現状である。